

平成26年度 保健師中央会議

地域包括ケアシステムの構築に向けて －官民学連携による介護予防の推進－

平成26年10月21日(火)

神戸市保健福祉局高齢福祉部 介護保険課

係長 森井 文恵



神戸市の概要①

兵庫県



北部に六甲山

東西に広がる市街地

南部は海：開港都市



神戸市の概要②

人口	1,548,790 人
65歳以上人口	389,403 人
65～74歳	204,515 人
75歳以上	184,889 人
高齢化率	25.1 %
要介護認定率 (第1号被保険者中)	19.8 %
行政区	9区(1分室1支所)
保健師数	神戸市総数 171 名 うち、各区包括担当者 11 名 本庁地域包括支援係保健師 4 名

平成26年3月末現在



神戸市の概要③

地域包括支援センターについて

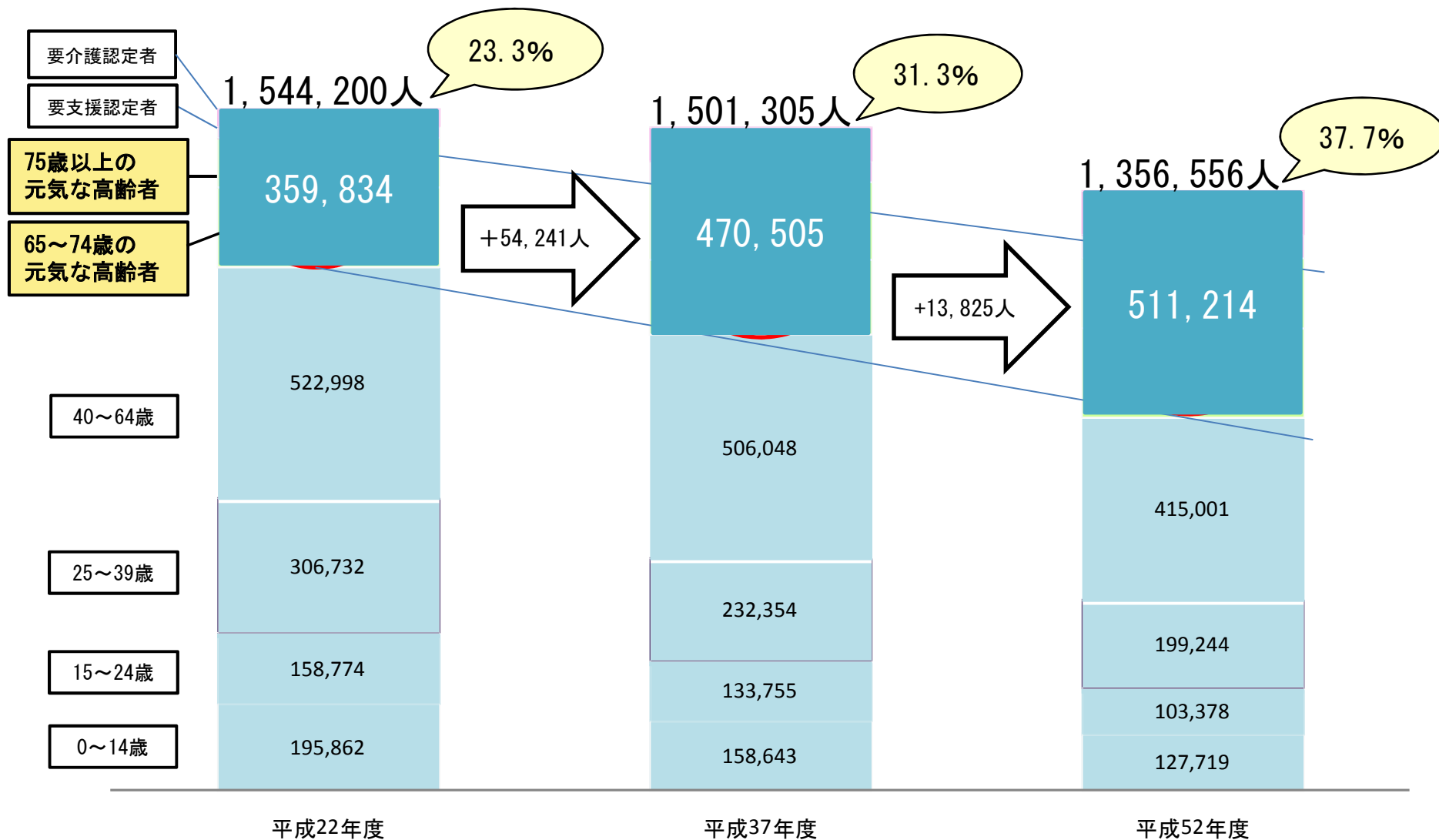
- 愛称：あんしんすこやかセンター
- 市内75か所（概ね中学校圏域ごと）
- 役割：地域包括ケアの推進

住み慣れた地域で安心して生活できるように支援

- 社会福祉法人等に委託
- 配置職種：保健師・看護師、社会福祉士、主任ケアマネジャー、見守り推進員



神戸市の将来推計人口

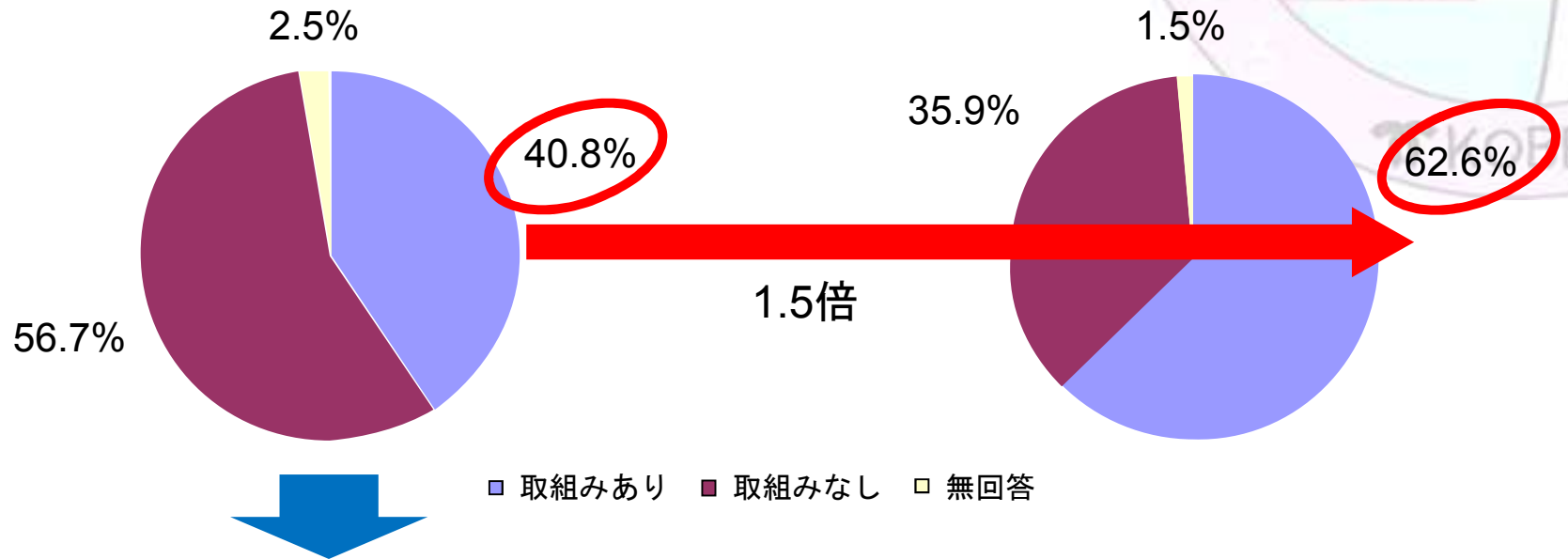


平成25年3月末現在の神戸市人口に占める要介護度別認定者数構成割合をもとに作成。将来推計人口は、社会保障人口問題研究所作成の市町村別将来人口推計を引用。

介護予防の取り組み状況

二次予防事業対象者 15,514人

非該当者 41,905人



介護予防への関心の低さが窺える！

※ このデータは、平成23年度 基本チェックリスト結果を活用し、70～80歳の者で介護予防の取り組みの有無を二次予防事業対象者・非該当者で比較したものである。



介護予防を推進する上での課題

介護予防事業の課題

- 介護予防の周知度の低さ
- 介護予防事業の参加者の固定化
- 特定高齢者施策への参加率が低い
- 魅力ある介護予防事業（プログラム）の不足



介護予防を推進する上での課題

地域包括支援センターの課題

- 地域活動の経験不足
- 個別相談業務等で多忙
- 地域との顔の見える関係が築きにくい



介護予防を推進する上での課題

行政保健師の課題

- 保健師の分散配置により、保健師の専門性が十分に発揮できていない
- 顕在化した健康問題に対し、縦割りの対応に留まる傾向がある
- 地域に出向く機会が減少したことにより、地域との顔の見える関係が築きにくい



民間事業者と介護予防にかかる連携協定を締結



記者資料提供（平成25年10月28日）

保健福祉局高齢福祉部介護保険課 原、森井

TEL:078-322-6325 内線 3198

ネスレ日本株式会社広報室

嘉納、森本

TEL:078-230-7060

「こうべ 元気！いきいき！！プロジェクト」
ネスレ日本株式会社と神戸市との連携協定
カフェからつながる高齢者のいきいきライフ

ブランド力・情報発信力の活用

1. 趣旨

今後、高齢化が一層すすむなか、豊かな長寿社会を実現するためには、日頃から体調管理に気を付け、運動や栄養管理等を実践していただくことが必要であり、それらを日々楽しみながら続けていただけるようなきっかけ作りを行うことが重要になります。

このようななか、民間事業者が有するノウハウやブランド力を活かして情報発信力を強化し、魅力ある事業展開を行うことにより、より多くの高齢者に介護予防に取り組んでいただくよう、このたび、栄養・健康・ウェルネス企業として、おいしく健康的な製品の提供と様々なサービスを提案しているネスレ日本株式会社（本社：神戸市 以下、ネスレ日本と表記）と「こうべ 元気！いきいき！！プロジェクト」にかかる連携協定を締結し、本市における介護予防を推進していくこととなりました。

なお、民間事業者との協定締結にもとづく介護予防の推進は、全国でも先進的な取り組みであり、今後とも他都市にはない先駆的な事業スキームの確立を目指して連携をすすめていきます。

2. ネスレ日本（株）との連携項目（＝連携協定書の内容）

（1）介護予防カフェの実施

介護予防カフェによる高齢者の「つどいの場」づくり支援

地域の集会所等を巡回し、高齢者をはじめとする地域住民がコーヒー等を飲みながら語り、みんなで介護予防に取り組んでいただく「つどいの場」づくりを応援していただきます。ネスレ日本様より、コーヒーマシン「ネスカフェ ゴールドブレンド パリスタ」を提供していただきます。

（2）介護予防プログラムの実施

介護予防プログラムの取り組み支援

① 介護予防エクササイズ

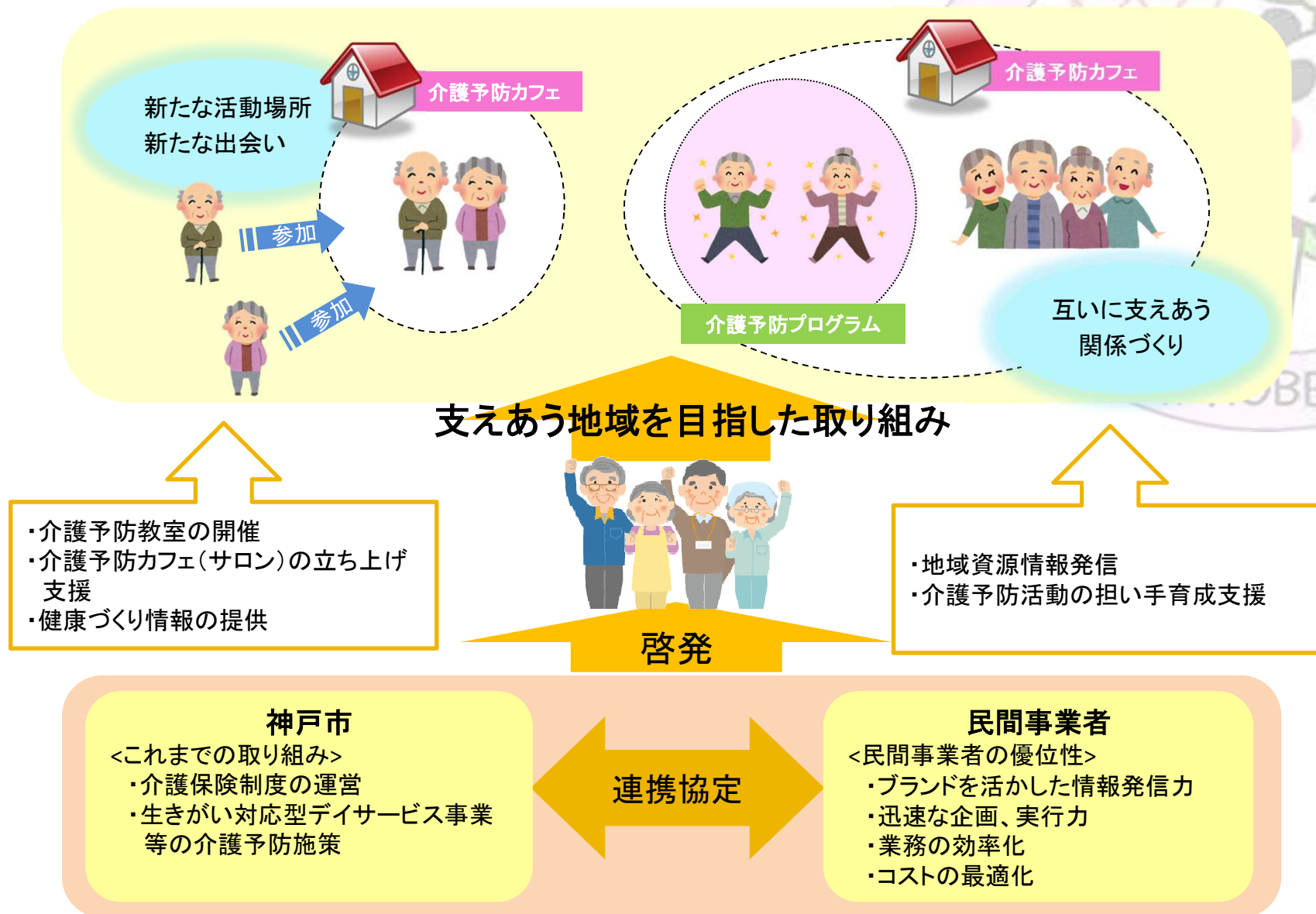
家庭や身近な生活の場で手軽に実践できるエクササイズを開発・実施し、要介護認定の原因として多い下肢筋力の機能低下の防止を図ります。また、教室を各地で開催し、エクササイズを一定期間継続することにより、地域で自主的に介護予防に取り組んでいただくための、運動の習慣化を支援します。



「こうべ 元気！いきいき！！プロジェクト」 展開方法

		個人レベルの 取り組み	集いによる取り組み	
		意識の向上	意識の継続	介護予防の実践
実施事業		<u>介護予防教室</u> ぱんだメイトの募集 (メルマガ登録等)	<u>介護予防カフェ</u> 参加者による自主活動 カフェへの情報提供	<u>介護予防プログラム</u> 介護予防プログラム ネスレオリジナルプログラム
役割分担	市	教室の主催 (会場設営、募集) メルマガ配信等	カフェの紹介 (センターへの周知) 会場調整	介護予防プログラム開発 介護予防プログラム実施
	ネスレ	教室の共催 (講師派遣、グッズ提供)	カフェ運営支援 (バリスタ等の提供)	オリジナルプログラムの運営 (ソーシャルビジネスモデル の実施)

こうべ 元気！いきいき！！プロジェクト



地域包括支援センターの課題

センター職員は

「地域活動経験が少ない」

「個別相談業務等で多忙」

「地域との顔の見える関係が築きにくい」

**地域特性に応じた活動が
十分にできていない！！**



平成24～26年度 (第5期神戸市介護保険事業計画)

地域包括支援センターの地域活動支援

「地域(圏域)のあるべき姿(=目標)を
根拠に基づいて語れる！」

★地域を好きになって、地域への責任を持って、地域住民とともに・・・

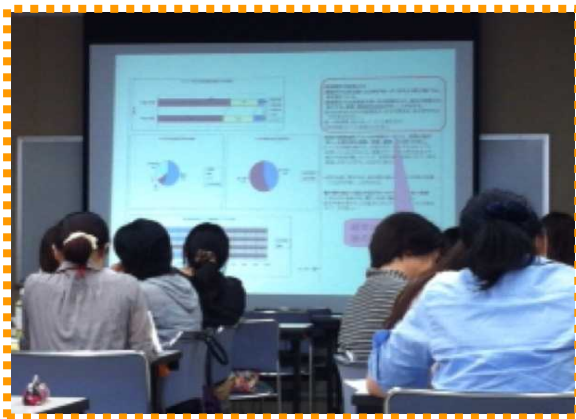
「地域診断」研修の開催



研修方法

実施期間：平成24年5月～11月（計4回）

実施内容：神戸市看護大学教授による講義、
グループワーク、**地域診断の実践**
アンケートによる効果測定（各回）
＋ 区保健師の日常的な支援体制



実践のまとめより(一例紹介)

地域に出掛けるのが好きになった。



担当地域の中でも、地区毎に特色がある**と気付いた**

専門職としての役割と自信を感じ、自分の感性（気づき）を磨く**ことが大切であると学んだ。**

地域と顔の見える関係**ができ、センターの周知につながった。**



コミュニケーション



地域住民

コミュニケーション



センター4職種

センター：**圏域内の地域診断**

自己効力感が向上

- 地域診断を実施する必要性は高い！
- 地域特性に応じた事業計画の検討



あんしんすこやかセンター

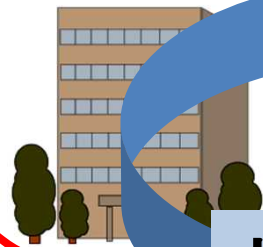
市(本庁)



市(本庁): **総合的な地域診断**⇒
施策化・行政関係者との調整 など



区役所



区: **総合的な地域診断**⇒

施策化・インフォーマルサービス
把握・行政関係者との調整 など



センター: **圏域内の地域診断**⇒

日頃の高齢者支援を通して得られた
情報をもとに、住民とともに、住民の主
体的な活動の継続をはかる



あんしんすこやかセンター



あんしんすこやかセンター

まとめ

- ❑ 高齢者の多様なニーズに対応するため、民間事業者も含めたネットワークが必要
- ❑ 地域診断に基づく介護予防(＝健康づくり)活動により、戦略的な地域づくりが可能となる
- ❑ 地域のつながり
⇒ 地域包括ケアシステムの構築へ



ご清聴ありがとうございました

平成24年2月に神戸
オリジナルの**介護
予防マーク**を作成



「**今日からはじまる
神戸ではじめる**」を
キャッチフレーズ

日本で3都市にしか
いない**ぱんだ**を
キャラクターに起用
須磨の海を背景に、
ぱんだのセーラーは
六甲山の緑をイメージ
カラーとして使用

こどもから高齢者まで、
世代を超えて**楽しみな
がら健康づくり（介護
予防）**に取り組めるよ
う、広めていきたいと
の思いを込めて
います